

令和8年7月10日
愛媛大学

「アドバンストソーシャルマネジメント学環」の設置について (記者説明会の開催)

このたび愛媛大学では、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査等を経て、本学の理工学研究科、連合農学研究科、医学系研究科が連係した大学院「アドバンストソーシャルマネジメント学環」(博士課程)を設置することとなりました。

つきましては、下記のとおり記者説明会を開催しますので、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

日時：令和8年7月16日(木) 10時30分～

場所：愛媛大学 本部管理棟 第1会議室

会見者：学長 仁科 弘重
理事・副学長 八尋 秀典
(アドバンストソーシャルマネジメント学環設置準備委員長)
社会共創学部 教授 松村 暢彦
(アドバンストソーシャルマネジメント学環設置準備委員会 委員)

<お願い>

事前に取材の参加者数を把握するため、取材に来られる場合は7月14日(火)までに電話又はメールにて下記担当までご一報ください。

本件に関する問い合わせ先
愛媛大学総務部評価 IR 課
TEL：089-927-8992
Mail：asm@ehime-u.ac.jp

※送付資料2枚(本紙を含む)

愛媛大学大学院 アドバンストソーシャルマネジメント学環 (博士課程)

学環の概要

- 学位名称：博士(学術) ● 入学定員：5名

研究科等関係課程

- 理工学研究科 ● 連合農学研究科 ● 医学系研究科

養成する人材像

産業界等の現場と学術をつなぎ、プロジェクトの“プロセス知”で社会を動かす変革リーダー

産業界等の現場における知見(実践知)だけでは解決できない複雑な問題に対して、各専門分野の理論や方法(学術知)を用いて分析を行い、解決策を構想し、体系化されたプロジェクトマネジメント手法を基盤としてプロジェクトを実装する。

その過程で、何が変革を生み、どのような条件が変革を支えたのかを明らかにするとともに、得られた知見を“プロセス知”として理論化し、これを社会に発信して次の変革へとつなげることができる博士人材を育成する。

既設3研究科の協力により、多様な現場課題を研究テーマに設定可能。



特徴

- 社会における実際の課題解決型プロジェクトを博士課程における研究課題として設定し、プロジェクトの実践と学術的アプローチを通じて、理論的な解決方法を体系化して社会に発信する。
- 社会課題への志向と実務経験を重視し、幅広いバックグラウンドの社会人を入学者に想定。
- プロジェクト構想支援や個別進学相談等、進学前サポートを充実。
- 体系化されたプロセス知と博士レベルの専門知識を駆使して新たな挑戦につなげる。新しいかたちの博士人材「変革リーダー」を育成する。

教育内容

- 国際的なデファクト・スタンダードとして広く認知されている「PMBOK®」に基づき、プロジェクトマネジメントの知識体系を学ぶ。
- PMP®(Project Management Professional)有資格者及び指導教員による「プロジェクト支援チーム」の伴走支援により、実務で活かせるプロジェクトマネジメント力の養成と、学術研究としての新規性・妥当性を担保する指導体制を構築。
- 成功・失敗の背景にある課題設定、合意形成、試行錯誤といったプロセスそのものを学術的に体系化し、プロジェクト論文としてまとめる。

アドバンストソーシャルマネジメントとは

本学環では、プロジェクトマネジメントを手法として、産業界等の現場における知見(実践知)と各専門分野の理論や方法(学術知)を結び付けるプロジェクトを実装し、社会課題に対する理論的な解決方法を再活用可能なかたちで設計・共有することを「アドバンストソーシャルマネジメント」と定義する。

実践知

個別の“現場の条件”のもとでの経験の蓄積から形成される、主に暗黙的・属人的な問題解決の知識。

学術知

体系化された理論・方法論・研究成果にもとづき、特定の現場条件に左右されずに適用可能な、明示的で検証可能性の高い知識。

経験
問題解決の知識

課題設定

各受入機関における
プロジェクト
の実践

プロジェクト
マネジメント
協働・実装

理論化・発信

プロセス知

実践と学術の往還を通じ、

変革プロセスの
成立要因を可視化し、

他の状況にも
適用可能な形で
理論化した知識。

想定する入学者像

- 実務の経験を学術的な知に高めたい方
- 地域や社会の課題解決に取り組みたい方
- プロジェクトを成功させる知識・スキルを身に付けたい方